

1. 授業のテーマと目標

専門職学位論文作成のため研究指導を行います。企業評価の国際化に伴う M&A と資本政策、財務報告、また知的資産の開示とマネジメントに関連したテーマを包括的に取り扱います。各自がビジネスの実践において醸成した問題意識の中から研究課題を導出し、アカデミックな視点で調査・分析を行い、研究課題の解決と調査・分析力の向上を目指します。

2. MBA ゼミナールの基本方針

MBA ゼミナールは、単に同一のゼミナールに所属しているといった機械的な連帯ではなく、各ゼミ生が「授業の概要と計画」に掲げた 8 つの異なったテーマで専門職学位論文の執筆という目標に向かう中で、切磋琢磨した活発な議論を通じてお互いの知識の向上と醸成を可能とする有機的な連帯を目指します。ここでは、各ゼミ生は知識の向上と醸成という共通の目標はもつが、各ゼミ生が異なる視点と分析方法で、また異なる Topics を研究しているという分業体制が鍵となり、お互いの知識の向上と醸成にあたっての各ゼミ生の存在意義が生まれます。教員、各ゼミ生、2 人の Teaching Assistants, そして MBA 演習の中で講義をしてくださる山口大学の内田恭彦教授（専攻は人的資源と知的資産マネジメント）、龍谷大学の中森孝文教授（専攻は知的資産経営報告書）、そして西南学院大学の鄭義哲准教授（専攻はコーポレート・ファイナンスと財務管理）を巻き込んだ意欲的な問題提起と議論によって、はじめて鋭利で明敏な学識を修養することができます。

3. 授業の概要と計画

つぎの研究課題に関連する領域の文献研究を基礎として、定量的な実証研究または定性的なケーススタディを実施いたします。

1. 日本企業の企業統治（Corporate Governance）と M&A
2. M&A による国際市場への進出（Cross-Border M&A Transactions）
3. 金融機関や証券アナリストの非財務情報の活用実態とディスクロージャー制度の拡充
4. Stock Option, Stock Repurchase, 金融機関の資本規制等の Net Wealth, または Capital に着目した資本政策と財務報告の課題
5. 企業活動の国際化と資金調達の国際化に伴う財務報告の課題
6. メインバンクやわが国内部統制の特徴とリスク・マネジメント
7. 知的財産および知的資産情報の開示とマネジメント
8. メディアの多様化と高度情報化社会におけるコンテンツ・ビジネスのマネジメント

1 年次は、学位論文を書くための基礎的な訓練、問題意識の醸成を、2 年次には、1～8.に

関連した研究テーマに焦点を当てて、専門職学位論文の執筆を指導いたします。このとき、演習参加者は「学生へのメッセージ」に記載されている方針を重視することを期待いたします。

4. スケジュール

第1回 8月20日 1限・2限 (8:50～10:20・10:40～12:10)

各ゼミ生は、A4・1枚程度で、(1)関心のある研究テーマと、(2)研究テーマに関連する自らの背景、および、(3)これまでに学習してきた文献等を纏めて、指導教員に提出するとともに、各ゼミ生に配布するために必要人数分を印刷して初回ゼミナールに参加してください。関心のある研究テーマは、この段階ではひとつに絞る必要はありません。複数の研究テーマを候補とすることも歓迎いたします。

初回ゼミナールでは、まず各ゼミ生は、A4・1枚程度を基礎としたリサーチ・プロポーザルをプレゼンテーションしてください。これを受けて、研究方針と必須な文献の提示、そして習得すべき **Research Methodology** を提示いたします。

つぎに、各人の関心ある研究テーマと背景を基礎として、「2010年 加護野忠男論文賞 候補作」10本をひとりについて2本割り当てます。ゼミ生が15人の場合、各候補論文について3人のゼミ生が割り当てられます。この3人のゼミ生をグループと呼びます。第2回ゼミナールにおいては、10本の各候補論文について、各グループは、共同でパワーポイントの発表資料を作成したうえで、研究の解題をプレゼンテーションしていただきます。具体的な研究の解題の目的と方法については、ゼミナールにおいて提示いたします。

(9月17日は、日本会計研究学会全国大会に出席のため、**9月17日 3限・4限・5限は、12月24日 3限・4限・5限に振り替えます**。誠に申し訳ございませんが、予定を変更していただきたく、よろしく願いたします。)

第2回 10月15日 1限・2限 (8:50～10:20・10:40～12:10)

第1回のゼミナールで割り当てた10グループ(各ゼミ生は2グループに所属しています)は、共同でパワーポイントの発表資料を作成したうえで、指導教員に提出するとともに、各ゼミ生に配布するために必要人数分を印刷して第2回のゼミナールに参加してください。まず各ゼミ生は、研究の解題をプレゼンテーションしてください。これを受けて、研究の企画、先行研究の渉猟、**Research Methodology** の選定、研究結果の意義と解釈について深く洞察いたします。研究の解題と洞察を通じて、経営学の研究における定量的な実証研究と定性的なケース・スタディを解説いたします。各ゼミ生は、第2回のゼミナールを通じ

て、定量的な実証研究と定性的なケース・スタディの概容を理解してください。定量的な実証研究については、第3回（10月15日）および第8回（3月24日）、定性的なケース・スタディについては第4回（12月24日）および第7回（2月18日）において詳細に解説いたします。

研究の解題をしていただく「2010年 加護野忠男論文賞 候補作」10本は以下です。

青木 慶 「実務における競争戦略論の有益性に関する考察 クリーニングパウダー主要3ブランドの競争戦略」

金子 潔 「日本の製薬会社の光と影 - 日本の製薬企業が生み出した利益構造とその課題 -」

池田 隆博 「リーダーシップのストーリーテリング（語り部）機能に関する研究」

富島 茂 「高齢者介護施設における経営「右腕」人材に関する研究 上司 - 右腕の二者間関係からのアプローチ」

原 尚史 「BtoB メーカーにおける製販連携システムに関する一考察—営業部門の新製品開発への関与—」

光森 進 「知識創造要因のマネジメントに関する実証研究 —研究プロジェクトにおける役割機能の分担と「場」の構築—」

植村 直樹 「新興国内需に対する国際戦略の研究 —アジアにて内需型ビジネスを展開する素材メーカーの事例から—」

高村 健一 「食品製造業の競争優位に関する実証研究～国際優良企業の事例分析に基づいて～」

北林孝顕 「競合企業間の共同設計プロジェクトにおける成功要因～鉄道車両開発の事例研究～」

植下伸一郎 「スタートアップ期の企業における予算管理制度に対する役割期待」

第3回 11月5日 3限・4限・5限（13:20～14:50・15:10～16:40・17:00～18:30）

経営学研究における定量的な研究のうち、とくに質問票調査を基礎とした調査研究について解説いたします。ここでは、研究の企画と質問票調査の作成、データの特性と解析方法の特定化について、山口大学の内田恭彦教授の招聘講演を交えて解説いたします。

内田先生の主な研究業績は、つぎの通りです。

Uchida, Y. (2010) "Careers and Abilities of Next-Generation Executive Candidates," *Japan Labor Review*, Vol.7, No.4.

Hirano, M., Uchida, Y. and Suzuki, R. (2009) “Knowledge Combination and Value-Creation Mechanism under the Japanese-Style Career System,” *Japan Labor Review*, Vol.6, No.3.

内田恭彦, ヨーラン・ルース (2008) 『日本企業の知的資本マネジメント』中央経済社.

内田恭彦 (2008 年) 「持続的競争優位を築く人材ポートフォリオ」『企業変革の人材マネジメント』若林直樹・松山一紀編著, ナカニシヤ出版.

内田恭彦 (2007) 「知的資産マネジメントと持続的競争優位」『知的資産ファイナンスの探求』古賀智敏・榊原茂樹, 與三野禎倫編著, 中央経済社, 第3章所収.

内田恭彦 (2007) 「日本企業の知的資産マネジメントー資源合理の知的資産経営とレポートイングの方向」『知的資産ファイナンスの探求』古賀智敏・榊原茂樹, 與三野禎倫編著, 中央経済社, 第4章所収.

第4回 12月24日 1限・2限 (8:50~10:20・10:40~12:10)

経営学研究における定性的な研究のうち, とくに新制度派社会学および Actor Network Theory を基礎とした調査研究について解説いたします。第3回ゼミナール時に事前に読む課題論文を提示いたしますが, ここではつぎの参考文献を掲記しておきます。

Powell, W. W. and P. J. DiMaggio (Eds.), *The New Institutionalism in Organizational Analysis*, University of Chicago Press, pp. 267-292, Chicago U.S.A..

Latour, B. (1993) *We have never been modern*, Translated by Catherine Porter, Harvard University press, 1993 (川村久美子訳 (2008), 『虚構の「近代」 科学人類学は警告する』, 新評論).

第5回 12月24日 3限・4限・5限 (13:20~14:50・15:10~16:40・17:00~18:30 ; 9月17日 3限・4限・5限の振り替え)

半分のゼミ生について, Research Proposal の Revise を実施して, 具体的な研究計画, 調査および分析方法を提示いたします。

割り当てられた半分のゼミ生は, A4・2~3枚程度で, Revise した Research Proposal を指導教員に提出するとともに, 各ゼミ生に配布するために必要人数分を印刷してゼミナールに参加してください。

ここでは, 第1回ゼミナールで提示を受けた研究方針と必須な文献の提示, そして習得すべき Research Methodology の習得を反映した Research Proposal が期待されます。また, 第2回での研究方法の概容とともに, 第3回での実証研究の解説または第4回の事前の研究課題による定性的な研究の内容も反映されていることが期待されます。

まず各ゼミ生は、A4・A4・2～3枚程度の Revise した Research Proposal をプレゼンテーションしてください。これを受けて、具体的な研究計画，調査および分析方法を提示いたします。

第6回 1月21日 3限・4限・5限 (13:20～14:50・15:10～16:40・17:00～18:30)

第5回で割り当てなかった残りの半分のゼミ生について、Research Proposal の Revise を実施して、具体的な研究計画，調査および分析方法を提示いたします。

割り当てられた残りの半分のゼミ生は、A4・2～3枚程度で、Revise した Research Proposal を指導教員に提出するとともに、各ゼミ生に配布するために必要人数分を印刷してゼミナールに参加してください。

ここでは、第1回ゼミナールで提示を受けた研究方針と必須な文献の提示，そして習得すべき Research Methodology の習得を反映した Research Proposal が期待されます。また、第2回での研究方法の概容とともに、第3回での実証研究の解説または第4回の定性的な研究の解説も反映されていることが期待されます。

まず各ゼミ生は、A4・A4・2～3枚程度の Revise した Research Proposal をプレゼンテーションしてください。これを受けて、具体的な研究計画，調査および分析方法を提示いたします。

第7回 2月18日 1限・2限・3限・4限・5限 (8:50～10:20・10:40～12:10・13:20～14:50・15:10～16:40・17:00～18:30)

1限・2限は、第5回ゼミナールで割り当てられた半分のゼミ生に Research Proposal を基礎とした研究の進捗状況を最終報告していただきます。ここでは、先行研究の Review，仮説の提示，データ収集の状況またはケース企業の選定，Preliminary なテスト結果，および Preliminary な結論の方向性を含んだ概況を A4・2～3枚程度で指導教員に提出するとともに、各ゼミ生に配布するために必要人数分を印刷してゼミナールに参加してください。

3限・4限・5限は、経営学研究における定性的な研究のうち、とくにケース・スタディ研究の実践について解説いたします。ここでは、研究の企画とケース企業の選定，ケース分析の方法と解釈について、龍谷大学の中森孝文教授の招聘講演を交えて解説いたします。

中森先生の主な研究業績は、つぎの通りです。

『「無形の強み」の活かし方—中小企業と地域産業の知的資産マネジメント—』，経済産業調査会，2009年。

『「型」と「場」のマネジメント（共著）』（日本ナレッジ・マネジメント学会編集），共同執筆，かんき出版，2008年．

中小企業の知的資産の開示に関する考察－私募債発行企業と知的資産経営報告書作成企業の比較分析を中心に－，商工金融第60巻第10号，2010年．

産学官連携型の新たな教育プログラムに関する実践研究－知的資産経営報告書の教育ツールへの応用－，産学連携学VOL.5, NO.2，2009年．

大学と中小企業の効果的な知的資産の活用に関する一考察－知的財産権を連携ツールとして機能させるための方策を中心として－，産学連携学Vol.4, No.1，2007年．

京都府「知恵の経営」評価委員会 委員長（2008.9～）

京都府「きょうと元気な地域づくり応援ファンド事業」審査委員会 委員長（2008.8～）

京都商工会議所 知恵産業研究会 委員（2008.6～2009.3）

京都商工会議所 知恵ビジネスプランコンテスト審査委員会 委員（2010.1～）

第8回 3月24日 1限・2限・3限・4限・5限（8:50～10:20・10:40～12:10・13:20～14:50・15:10～16:40・17:00～18:30）

1限・2限は，第6回ゼミナールで割り当てられた残りの半分のゼミ生に Research Proposal を基礎とした研究の進捗状況を最終報告していただきます。ここでは，先行研究の Review，仮説の提示，データ収集の状況またはケース企業の選定，Preliminary なテスト結果，および Preliminary な結論の方向性を含んだ概況を A4・2～3枚程度で指導教員に提出するとともに，各ゼミ生に配布するために必要人数分を印刷してゼミナールに参加してください。

3限・4限・5限は，経営学研究における定量的な研究のうち，とくに株式・財務データを基礎とした調査研究について解説いたします。ここでは，研究の企画とデータ収集の方法，データの特性と解析方法の特定化について，西南学院大学の鄭義哲准教授の招聘講演を交えて解説いたします。

鄭先生の主な研究業績は，つぎの通りです。

「成長機会の価値と研究開発投資－日本の製造業を対象に－」『証券経済学会年報』，第39号，179－184頁，2004年5月．

「R&D企業の株式パフォーマンス：異常リターンとR&Dファクター」『証券アナリストジャーナル』，第43巻第10号，98－108頁，2005年10月．

「研究開発投資と株式リターン」『経営財務研究』，第25巻第1号，2－15頁，2006年4月．

「研究開発投資とリスクの関係について：設備投資との比較分析」『西南学院大学商学論集』

第 54 卷第 3 号, 151-168 頁, 2007 年 12 月.

「成長機会に対する研究開発投資と変動性の効果」『西南学院大学商学論集』第 53 卷第 3・4 合併号, 263-285 頁, 2007 年 2 月.

「企業の研究開発投資と株価形成」『証券アナリストジャーナル』第 44 卷第 7 号, 48-58 頁, 2006 年 7 月.

「パーソナルファイナンス入門」(第 11 章)中央経済社, 2006 年 4 月.

5. 成績評価の方法と基準

現代経営学演習では, 複数の教員による論文審査によって成績を評価したうえで, 単位が認定されます.

6. 履修上の注意 (関連科目情報用を含む)

1~8.の研究課題に関連する授業を履修するようにしてください.

7. オフィスアワー・連絡先

適宜に提示いたします.

8. 学生へのメッセージ

ゼミナール生の積極的な報告と参加が演習の基本となります. 報告者は, 資料 (レジュメやプレゼンテーション資料) を演習の参加者に事前に配布してください. 参加者は, 授業時間までにその資料に目を通して演習に積極的に貢献することが期待されます. グループ討論では, 割り当てられたコメンテータの報告と参加者との質疑応答を実施いたします.

9. テキスト

適宜に提示いたします.

10. 参考書・参考資料等

適宜に提示いたします.